

第2回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成27年4月23日（木） 10：00－12：15

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、鎌田部会長代理、下村委員、中須賀委員、中村委員、松尾委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 政府側

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

宇宙産業・科学技術基盤部会の委員に一部変更があったことから、冒頭、資料1に基づき、部会委員の紹介が行われた。また、山川部会長より、部会長代理として鎌田委員が新たに指名された。

(1) 各工程表の成果目標及び平成28年度に向けて検討すべき課題について

参考資料1、参考資料2及び参考資料3に基づき宇宙産業・科学技術基盤部会で審議を行うことになった政策項目、その成果目標及び平成28年度に向けて検討すべき課題について事務局から説明を行った。

(2) 宇宙基本計画の政策項目の評価等について

新型基幹ロケット及びイプシロンロケットについて審議を行った。

<新型基幹ロケット>

新型基幹ロケットの概念設計の結果としてのシステム仕様やミッション要求等の一部改訂、今後の開発計画について、文部科学省から資料2、JAXAから資料3に基づき説明が行われた。説明の後、以下のような意見があった。

(○：質問・意見等、●：回答)

○新型基幹ロケットと競合する諸外国のロケットの打ち上げ価格の調査を継続的に実施しつつ、開発を進めるべき。

○（全議決権の三分の一以上が外国人株主等になったキー技術事業者があらわれたことについては、自立性確保の観点から現時点で問題はないと文部科学省より説明があったことに関連して）キー技術をすぐに他の企業が担えるわけではないことに留意しておくべき。

○小型衛星の打ち上げ需要の増加にはどう対応するのか。

●イプシロンロケットも含めたラインナップで対応していく。

審議の結果、システム仕様やミッション要求等の一部改訂は適切であると認められ、本格的な開発段階である基本設計フェーズへ移行することが了承された。また、今後の開発計画についても妥当であり、開発を着実に推進していくことと

された。

<イプシロンロケット>

宇宙基本計画で将来の固体ロケットの形態の在り方について検討に着手することとされていることを踏まえ、将来の形態の在り方を検討するにあたっての観点や検討の方向性等について議論を行い、以下のような意見があった。

(○：質問・意見等)

○海外の競合ロケットと比較し、国際競争力のあるロケットとすべき。

○安全保障衛星、科学・探査衛星、民生衛星等の各分野の衛星の打ち上げニーズを把握し、ロケットの打ち上げ能力の範囲を明確化すべき。

○新型基幹ロケットとの相互のシナジー効果を検討すべき。

○我が国全体でどのようなロケットのラインナップを保有するのかという観点から、将来の固体ロケットの形態の在り方を検討すべき。

○超小型衛星のクラスター打ち上げの需要を考慮すべき。

今後、文部科学省が中心となってイプシロンロケットの将来の形態の在り方を検討するにあたっての考え方をまとめ、それをもとに再度本部会で議論を行うこととなった。

(3) 宇宙法制小委員会の審議の状況について

資料4に基づき鎌田宇宙法制小委員会座長及び事務局から説明を行った。

(4) 宇宙科学・探査小委員会の審議の状況について

資料5に基づき事務局から説明を行った。

以 上